

# くわな IoT 推進ラボ協議会（グリーン IoT ラボ・桑名）総会 議事録

<p>日時・場所</p>	<p>令和4年5月13日(金) 10:00～11:00                  オンライン会議との併用                  市役所3階第2会議室</p>
<p>出席者</p>	<p>出席者 10名                  NTN株式会社（自然エネルギー商品事業部）                  顧問 石川 浩二                  桑名商工会議所                  専務理事 森下 充英                  桑名三重信用金庫                  常務理事 長谷川 吉信                  中部電力パワーグリッド株式会社桑名営業所                  桑名営業所長 大西 正人                  百五銀行                  桑名支店長 杉本 和                  丸紅株式会社                  中部支社長 鈴木 敦                  丸紅新電力株式会社                  新規事業部 事業企画課 課長補佐 星谷 将人（代理出席）                  ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社                  取締役執行役員 出口 達也（オンライン）                  三重工場 施設部 部長 及川 宏幸                  桑名市                  副市長 平野 勝弘</p> <p>アドバイザー 1名                  三重大学                  地域イノベーション学研究科 教授 西村 訓弘</p> <p>市出席者                  総務部長 高橋 潔                  事務局 6名</p>
<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長挨拶</li> <li>3 新会員の入会について</li> <li>4 議題                         <ol style="list-style-type: none"> <li>第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告について</li> <li>第2号議案 役員改選について</li> <li>第3号議案 令和4年度事業計画（案）及び予算（案）について</li> </ol> </li> <li>5 報告事項                         <ol style="list-style-type: none"> <li>① 令和3年度の取り組み状況及び令和4年度の取り組み予定について</li> </ol> </li> <li>6 意見交換                         <ol style="list-style-type: none"> <li>① 三重大学大学院地域イノベーション学研究科 教授 西村訓弘氏</li> <li>② 意見交換</li> </ol> </li> <li>7 その他</li> <li>8 閉会</li> </ol>

概要  
(主な意見)

2 会長（桑名市副市長）挨拶

くわなIoT推進ラボ協議会が立ち上がって1年になる。ちょうど1年前、国において、いわゆる改正地球温暖化対策推進法が公布・施行されるような状況の中で、市においてもゼロカーボンシティ宣言をして、その担当部局であるグリーン資産創造課を立ち上げ、これまで協議会の皆さんご協力のもとで進めさせていただいてきた。この1年で、皆さんのご協力のもと、市として脱炭素に向けて様々な取り組みが相当できたのではないかと考えている。

今日の総会では、令和3年度の事業活動報告をさせていただくが、今年度も引き続き進めていきたい。これから2050年に向けて進めることが山積しているが、PPAのような新しい形での再エネの導入をはじめ、市として着実に進んでいることはありがたいと思う。

グリーンIoTという脱炭素とDXを合わせて進める中で、もう一つとして、市ではオープンフィールド構想を掲げており、市内において企業活動をしていただきたいという思いがある。これは、脱炭素の取り組みと、デジタル化推進の部分は当然あるが、これから設備投資を含めた企業活動の場として桑名市を候補地の一つと考へご検討いただき、形になるようお願いしたい。

本日、総会ということで令和3年度の事業報告、令和4年度の事業計画について説明させていただき、また、意見交換として、三重大学地域イノベーション学研科の西村教授からも、最近の動向も含めてご教示いただける。産官学金で今後一緒に取り組む際の参考や施策反映に繋がるような形に持っていきたいと思っているので、引き続きご協力をお願いしたい。

3 新会員の入会について

ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社の本協議会への入会について事務局から説明。

会員の賛同を得て承認。質疑等なし。

【新会員挨拶】

- ・入会を承認いただき感謝申し上げます。当社は、1984年に現在の桑名市多度町で操業を開始した半導体の製造会社である。協議会に参加することでゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みに役立ちたい。先日は、当社と株式会社デンソーとで桑名で電動自動車に向けたIGBTというデバイスの製造に関してプレスリリースした。これに基づきゼロカーボンに向けて貢献していきたい。
- ・協議会に参加させていただき感謝申し上げます。現在は、RE100を宣言し、2050年までに100%再生可能エネルギーの使用、GHG排出量実質ゼロを目標として、環境負荷の定量化を進めている段階にある。皆様とともに桑名市で貢献できればと思っている。

4 議題

第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告について、議長は事務局からの説明を求め、事務局からの説明と監事からの会計監査報告を経て、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

第2号議案 役員の改選について、規約第5条第4項に基づき会長に桑名市副市長 平野勝弘、監事に桑名三重信用金庫 専務理事 長谷川吉信氏の再任を提案したところ、満場一致をもって承認された。

第3号議案 令和4年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、議長は事務局からの説明を求め、その後、その承認を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

## 5 報告事項

### ① 令和3年度の取り組み状況及び令和4年度の取り組み予定について

事務局から資料2をもとに説明。

#### 【意見・感想】

- ・令和3年度は、多度山上公園に循環型トイレを設置した。市とともに取り組んだものを世の中に広めていく、特に桑名から発信していくということが非常に大切であると考えている。桑名市での取り組みを、色々なところに紹介しながら、市のPRも含めて一緒にやっていくことができると考えている。それ以外にも自然の地域貢献活動もしており、これからも一步一步桑名市の中で取り組んでいきたい。循環型トイレについては、色々なところから「見学に来たい」「ほしい」などの声をいただいている。また、サイネージを使って携帯電話にクーポン券をダウンロードすることができる。多度大社の近くの店で色々なサービスを受けられるので、ぜひ多度山に行っていただきたい。

⇒多度山上公園のトイレはこれまで毎日のようにトラック1台で水を運んでいたものが、循環式になったことで水を運ばなくて済む。市としても、経費面も相当助かっている。多度山はハイキングブームで入山者も多い。山の下が多度大社の門前町も潤えばと思っている。地域振興のためのクーポンも入れていただきありがたい。先進的な取り組みとして、導入できたということは大変ありがたい。引き続きご提案いただければと思う。

- ・エネルギー関係については報道でご存じのとおりだが、脱炭素については世界的にも取り組むべき課題として、当社も新たな取り組みを進めている。特に、電気自動車の充電設備や水素エネルギーの取り組みも始めており、具体的に見えてこればご提案していきたい。
- ・現在、電力の問題がクローズアップされており、太陽光パネル・蓄電池の共同購入事業は、非常に大切な取り組みであるため、少しでもスケールが大きくなれば良いと思う。ゼロカーボンフェアは中止となったが、このチラシに、当社が取り組み始めているedishが載っている。先日、テレビでも紹介された。edishは、植物由来の原料で、土に還って、それをまたさらに循環させるという試みで、まだまだ試験段階ではあるが、こういう取り組みもやっている。若者たちが社内で公募したアイデアを実現させようという企画なので、まだまだ完成度が低い部分もあるが、このような地道な取り組みも、自治体にとっては非常に大切だと思うので、ご協力していけるかと思う。
- ・市役所本庁舎の電気も供給させていただいており非常に光栄である。オフサイトPPAも我々としても非常に興味深い。引き続き皆様と連携し、より良いことをできたらと思う。
- ・令和4年度の事業計画の中ではDXとグリーンを二本柱としている。特に今年度に入ってから、ウクライナ情勢もあり、企業の経営者にとって燃料費の高騰が大きく影響している。IoTを含めて、企業が、今どれだけのCO<sub>2</sub>を排出しているのかということを理解していただく必要がある。環境省では、プログラムをすでに作っているようなので、うまく活用し、各企業が電力消費も含め、どれくらい下げたいのかを意識して取り組んでいただく、というのを今年はやってみたい。活用可能なプログラムがあればご指導いただければありがたい。太陽光パネル・蓄電池の共同購入事業は、精一杯協力をさせていただく。家庭に加え小規模の事業所も対象であるため一層推進できればと思う。
- ・脱炭素に注力する中で令和4年4月から、新中期経営計画を策定した。大きなテーマとしてグリーン&コンサルバンクグループを目指して取り組んでいる。お客様に、まずはCO<sub>2</sub>の排出量からご理解いただくという中で、そのような

ツールを用意し、説明している段階である。グリーンファイナンスという融資の商品も令和4年4月から商品設計した。本格的に脱炭素に向けて、当社としても取り組んでいく。

- ・令和3年度はふるさとCo-LEADに関わらせていただいた。今後も、市と商工会議所と連携し、地元の中小企業・零細企業専門金融機関ならではの協力をした。広く今の時代に合った取り組みを、お客様にもPRしながら、その意見を吸い上げて、市、商工会議所、グリーンIoTラボとともに拡大していきたい。
- ・半導体工場は、電力やエネルギーを非常に消費する。桑名市の中で一番環境負荷の高い会社であることは自覚しており、我々が最も努力しなければならない会社だろうと思っている。半導体は非常に好況であり、これからも工場を作るなど投資がどんどん増えていく。その中で最先端の省エネ設備など地域にアピールしながら様々な取り組みを広げていきたい。同時に、CO<sub>2</sub>をどのように削減していったのかということも開示できるような仕組みを作れたらと思う。

## 6 意見交換

### ① 三重大学大学院地域イノベーション学研究科 西村教授

今、時代が大きく変わる中で、物事の課題を深く見なければならぬ。表面だけでなく、その裏側や根底にある理由をしっかりと理解しないと、見誤るかもしれない。特にSDGsは、表面だけでやっていると本質がわからなくなる。

江戸時代、明治維新以降に西洋から入ってきた新しい社会システムにより、日本は色々なものを導入してきたが、本当の意味でその根底を理解していたのか。日本人には、昔から営々とつないできた、現場力や互助の考えといった資質が備わっていた。そのおかげで、西洋のシステムを取り入れても、なんとかうまくこなしながら欧米諸国に追いついてきたのは良かった。しかし、欧米諸国に対応してきたように見えてはいたが、実際にはやり切れていない可能性がある。それは、封建主義から資本主義へと対応しきれなかったことにより1ヘクタール以下の兼業農家が激減していることや、日本の軍隊方式で作ったDMATがいざという時にうまく機能しないという事例からも見て取れる。

日本が新たに成長するために、最も大切なこととして、これからは本格的に日本のシステムに西洋システムを融合させなければならない。SDGsを考えるうえでも、アメリカ式のプラットフォーム型ビジネスやブリュッセル・エフェクトがどのように形成されているのかを理解する必要がある。ブリュッセル・エフェクトの根底にあるのは、強い市民力や、議論に議論を重ねてルールを決めたら揺るがないといった哲学である。ゼロカーボンやカーボンニュートラル、持続可能な社会というルールには、ヨーロッパ市民の強い意思が反映されている。日本人は、こうした西洋社会を理解したうえで、どれほどの本気度をもって臨むのか、どのようなマインドチェンジやリセットが必要なのかを考えるべきだ。

実際、日本は江戸時代に持続可能な社会であった可能性がある。今後、日本が本格的にどう取り組むかは、その理解をもって日本社会の根底にある持続可能性を基本にやれば良いのではないかと。表面上で中途半端にやるのではなく、本当の意味でゼロカーボンに取り組む覚悟が必要だろう。

また、日本が確実に結果を出すには、国家の将来を見越しながら、バックキャスト的なやり方ではないと、本当の意味で世界では勝てないのではないかと。桑名市が今取り組もうとしていることは大変すばらしい。10年後、20年後、30年後の桑名市の未来像を描き、何をすべきか構想を練りながら、バックキャスト的な考え方をもってこの会議が進んでいくと良いと思う。

### ②意見交換

- ・日本は平和で暮らしやすいため、本質的な課題が見えにくく、すぐ対応しなくても済む。一方、以前赴任していたインドを例に挙げてみると、日本とは異なり、課題にすぐ対応しないと明日死ぬかもしれない、といった恐怖感があり、それがインドでのイノベーションを勢いづけている。最近では農家や酪農家にもIoTが入ってきており、彼らの収入増や生産物の価値の認識につながりモ

チベーションアップに寄与している。課題の本質的なところを突き詰めて考えることは大事だと感じる。

- 同じものに対して、それをダメだと見るか、チャンスと捉えるかで変わってくる。疲弊した末端の地方でも、昔の仕組みのままでやるのではなく、考え方を変えてDXを使って最先端の教育や医療を住民が受けることができるという事例もある。桑名市の中にも将来を見越した発想力やダイナミズムがあると良いのではないか。
- 循環型トイレは非常に面白いと思った。トイレを1個置くだけで、水を運ばなくても済む、皆がきれいなトイレを使える、環境教育ができるようになって、多度山が変わるという発想がすごい。社会の根底にある課題に対し、仮説を立てて取り組む。利用者にとっても、環境に良いことをしている意識を持てるし、自分が住む街への誇りを醸成するという波及効果もある。

#### 7 その他

今年度の分科会は3回開催する予定で、第1回は令和4年7月ごろを予定していると案内した。

以上